

取扱説明書

種子コーティングマシン

KC-300

製造元 株式会社啓文社製作所

〒731-0523 広島県安芸高田市吉田町山手739-6

TEL 0826-43-1201(代)

FAX 0826-43-1768

<http://www.keibuntech.com>

購入日 平成 年 月 日

購入店名

※カルパー®は保土谷化学工業(株)の登録商標

安全のために

この製品を安全に正しくお使いいただくために、必ず本取扱説明書をお読みください。
誤った使い方をすると事故を引き起こすおそれがあります。
お読みになった後も、必ず製品の近くに保存してください。

— 目次 —

1. はじめに	1
2. 安全に作業するために	2
3. サービスと保証について	4
4. 本製品の使用目的について	4
5. 各部のなまえ	5
6. 仕様	5
7. 組立要領	6
8. 仕様上の注意	9
9. 操作方法	9
10. 種子の取り出し方法	10
11. 作業方法(カルパーコーティング)	11
12. 作業方法(鉄コーティング)	16
13. 部品表	18

NO.	品番	部 品 名	個数
46	※	ドラム	1
47	※	フランジ	1
48	※	Y型ヘラ	1
49	※	霧吹き器	1
50	023193	ベースフレーム	1
51	023195	後ろフレーム	1
52	023197	前フレーム	2
53	023199	支えフレーム	1
54	023201	アングルアジャスター	1
55	023205	ヒンジピンφ12×75	2
56	023207	ヒンジピンφ12×130	2
57	023209	キャスター自在φ75	2
58	023210	キャスター自在φ75 プレーキ付	2
59	023203	ボックスブラケット	2
60	023211	スクレーパアーム	1
61	023213	スクレーパφ10×500	1
62	009010	スタンドベース	1
63	009020	サーモホルダ	1
64	009030	スタンド脚	3
65	023214	噴霧ノズル(オプション)	-
66	☆	PL 取説注意シール	1
67	☆	取扱注意事項ラベル	1
68	☆	主電源注意ラベル	1
69	☆	PL チェンカパー注意シール	1
70	☆	SF KEIBUNシール	1
71	☆	感電警告ラベル	1
72	☆	ドラム重量制限警告ラベル	1
73	☆	回転注意ラベル	1
74	☆	挟み込み注意ラベル	1
75	☆	巻き込み注意ラベル	1

NO.	品番	部 品 名	個数
116	008044	六角ボルト M8×15 3P	3
117	※	六角ボルト M10×25 2P	4
118	023252	六角ボルト M10×30 3P	6
119	※	六角ボルト M10×50 11T	1
120	000598	蝶ボルト M6×15	1
121	003646	蝶ボルト M8×15	1
122	001370	ナット M10	2
123	023019	平座金 φ12×26×2.3	4
124	001851	松葉ピンφ10	4
125	001850	平座金 φ10×22×2.3	2
126	023388	六角ボルト M10×35 3P	2

(注)※印の部品はセット販売品です。
単品での販売はできません。

(注)☆印の部品はセット販売品です。
単品での販売はできません。

(注)オプションはセット販売です。
単品での販売はできません。

1. はじめに

このたびは弊社の製品をお買い上げいただきましてありがとうございました。
この取扱説明書は本製品の正しい取扱方法、簡単な点検及び手入れについて説明しています。
ご使用前に良くお読みいただき十分理解され、お買い上げの製品がすぐれた性能を発揮し、かつ安全で快適な作業をするために、この取扱説明書をご活用ください。また、お読みになったあとも製品に近接して保存し、わからないことがあったときには取り出してお読みください。
尚、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行うことがあります。その際は、お買い上げの製品と、この説明書の内容が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
この取扱説明書を良く読み、理解した上で安全な作業を行ってください。

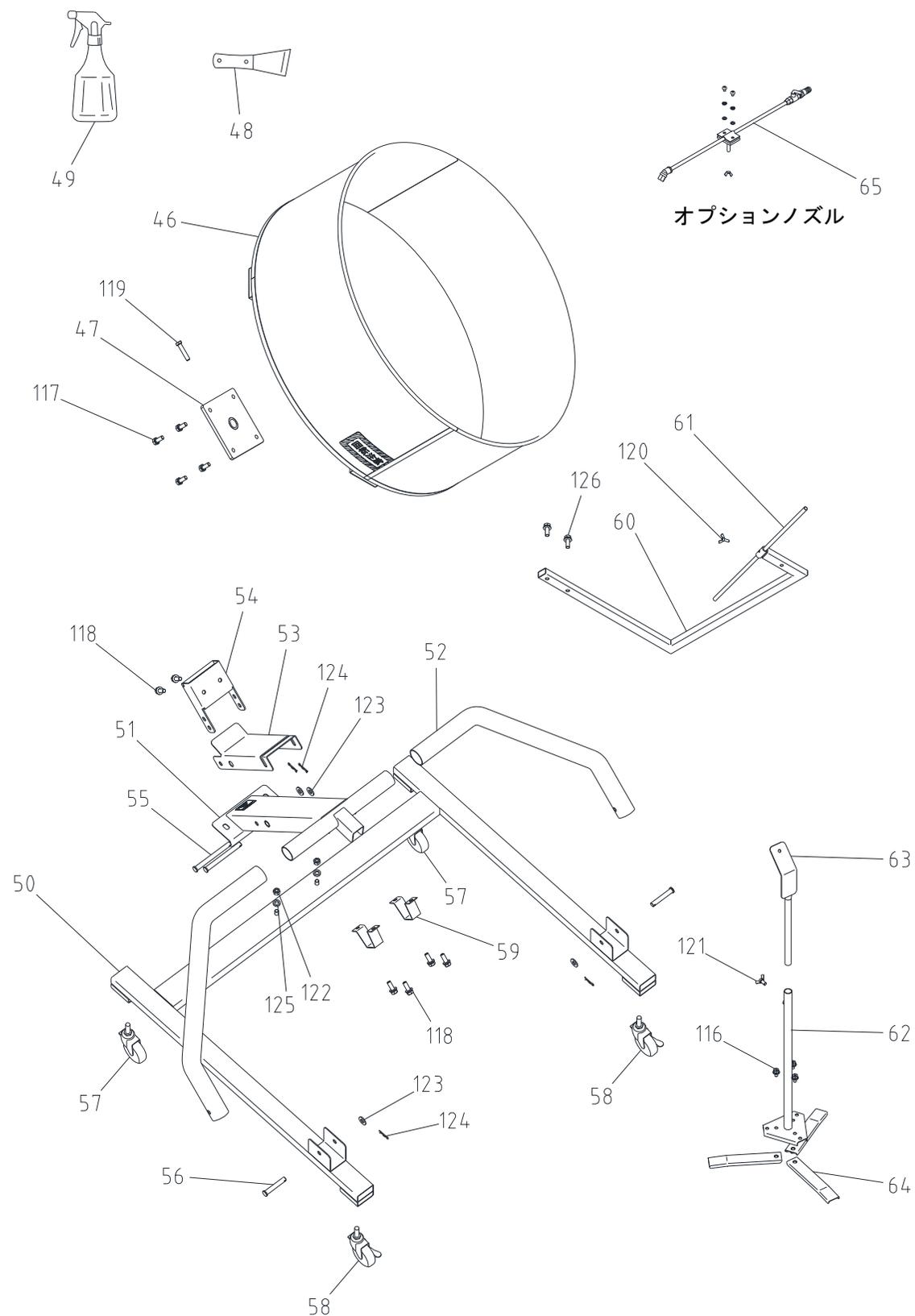
⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた ⚠ の表示があるラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお、⚠ の表示ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買い上げの販売店に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

■ 注意表示について

本取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について、次のように表示しています。

- ⚠ 危険** : 注意事項を守らないと、死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
- ⚠ 警告** : 注意事項を守らないと、死亡又は重傷を負う可能性があるものを示します。
- ⚠ 注意** : 注意事項を守らないと、ケガを負うおそれのあるものを示します。
- 重要** : 注意事項を守らないと、機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。
- 補足** : その他、使用上役立つ補足説明を示します。



2. ⚠️ 安全に作業するために

〈必ず読んでください〉

本機をご使用になる前に、必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で、安全な作業をしてください。安全に作業していただくため、ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りです。これ以外にも本文中で

⚠️ **危険** ⚠️ **警告** ⚠️ **注意** **重要** **補足** としてそのつど取り上げています。

⚠️ **警告** こんなときは作業しない。

- 過労・病気・薬物の影響・飲酒・その他の理由により、作業に集中できない。
【守らないと】 思わぬ事故の原因になります。

⚠️ **警告** 機械を人に貸すときは取扱い方法を説明する。

- 取扱い方法をよく説明し、事前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。
【守らないと】 重大な傷害、機械の破損をまねくおそれがあります。

⚠️ **警告** 電源コードを必ず確認。

- 電源コードの引き回しの際、コードが巻き付いたり、下敷きにならないようにしてください。
【守らないと】 コードの被覆が破れて感電や火災を引き起こすおそれがあります。

⚠️ **警告** 設置は安定した場所で行う。

- 設置場所は、勾配の無い水平な場所を選択してください。
【守らないと】 転倒してケガのおそれがあります。

⚠️ **警告** 機械は水のかからない場所で使用。

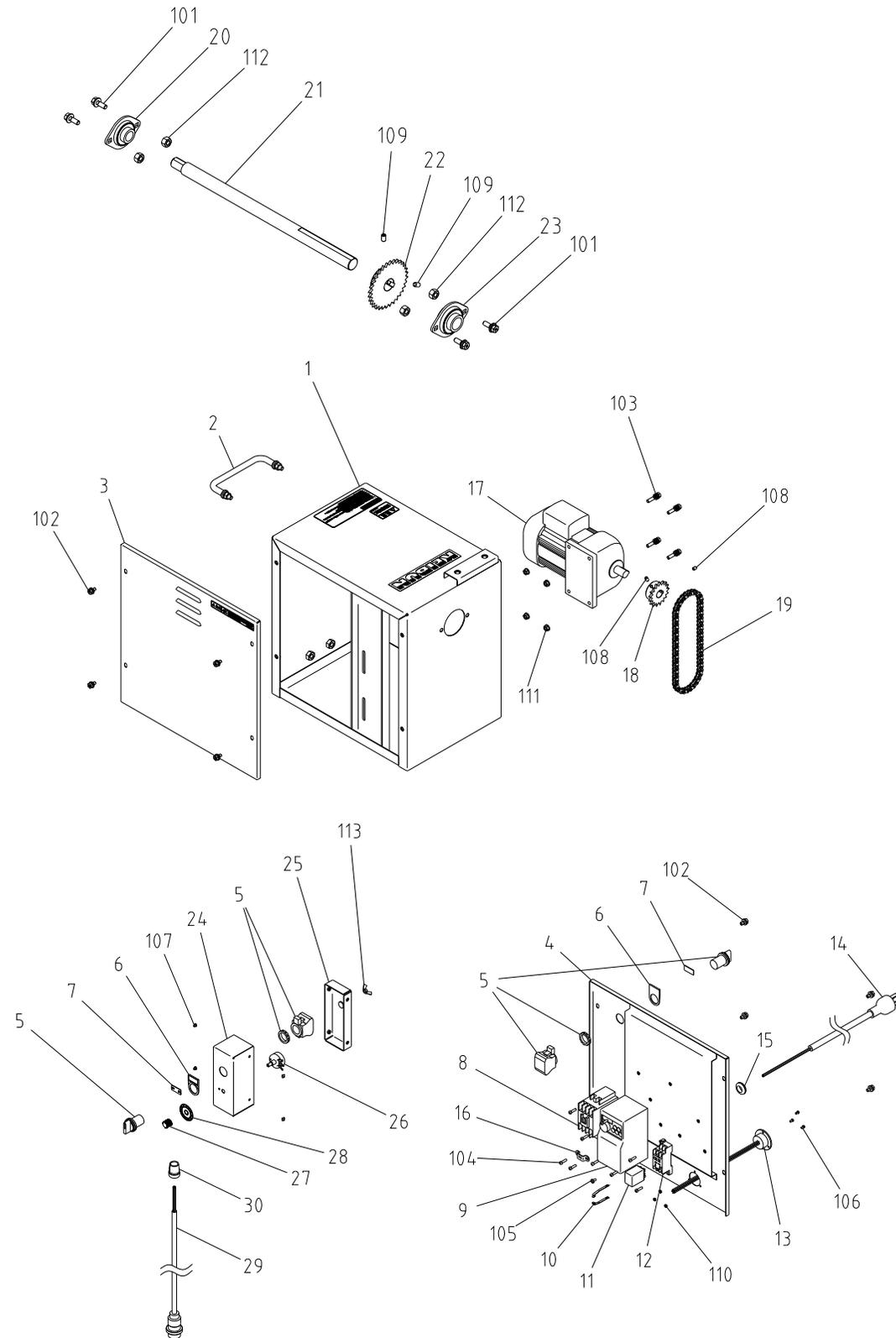
- モーター部・電源コードには 水をかけないようにしてください。
【守らないと】 万一故障漏電のさい、感電するおそれがあります。

⚠️ **警告** 必ずアース(接地)して使用する。

- 電路に漏電ブレーカーを入れてください。
【守らないと】 事故・ケガ、機械の故障をまねくおそれがあります。

NO.	品番	部 品 名	個数	NO.	品番	部 品 名	個数
1	023167	モータボックス	1	31	023228	リード線180(黒)	1
2	023172	取手	1	32	023229	リード線180(白)	1
3	022870	モータカバー	1	33	023230	リード線180(赤)	1
4	023169	モータカバー	1	34	023231	リード線60(青)	2
5	023176	電源スイッチ	2	35	023232	リード線180(青)	1
6	023177	電源スイッチ銘板	2	36	023233	リード線150(青)	3
7	023178	ON-OFFプレート	2	37	023234	リード線330(青)	1
8	001524	マグネットスイッチS-T10	1	38	023235	リード線200(青)	1
9	023174	インバータ	1	39	023236	リード線60(青)	2
10	050683	ソケット(PYG-A1)	2	40	023237	リード線350(黒)	1
11	050685	リレー(LY2N AC200/220)	1	41	023238	リード線350(白)	1
12	050684	ソケット(PTF08A)	1	42	023239	リード線350(赤)	1
13	023180	コード取付パネル	1	43	023240	リード線300(黒)モータ	1
14	023179	電源コード	1	44	023241	リード線300(白)モータ	1
15	000638	コードブッシュ	1	45	023242	リード線300(赤)モータ	1
16	000634	コードサドル	1	46	023325	リード線180(青)丸-ピン	2
17	023173	モータ	1	101	016294	六角ボルトM8×25 3P	4
18	023171	モータスプロケット14T	1	102	001859	六角ボルトM6×12 3P	8
19	002027	チェーン#35-60L	1	103	003619	六角ボルト M6×30 3P	4
20	002023	ベアリングユニット(204)	1	104	008087	ナベコネジ M4×15	9
21	002029	駆動軸	1	105	000188	バインドネジ M4×8 BS	1
22	002026	スプロケット32T	1	106	016006	ナベコネジ M3×6	3
23	002024	ベアリングユニット(205)	1	107	008006	トラスネジM4×8	4
24	023182	操作ボックス表	1	108	001862	止めネジ M6×6	2
25	023184	操作ボックス裏	1	109	001862	止めネジ M6×10	2
26	023186	可変抵抗器	1	110	014454	六角ナット M3	3
27	023187	ツマミ	1	111	001900	六角ナット M6	4
28	023188	ダイヤル銘板	1	112	001846	六角フランジナット M8	4
29	023189	操作ボックスコード	1	113	001310	蝶ナットM6	1
30	023227	コードブッシュ	1				

13. 部品表



⚠ 警告 運転中は回転部や駆動部に触れてはいけません。

- 運転中、潤滑材の補充・充填をしてはいけません。
- 【守らないと】 巻き込みや挟み込みにより、身体に重傷を負う危険があります。

⚠ 注意 機械の改造禁止。

- 純正以外の部品や、指定以外の部品を取り付けしないでください。
- 改造をしないでください。
- 【守らないと】 重大な傷害、機械の破損をまねくおそれがあります。

⚠ 注意 カバー類は必ず取り付ける。

- 点検・整備などで取り外したカバー類は、必ず取り付けて使用してください。
- 【守らないと】 事故・ケガ、機械の故障をまねくおそれがあります。

⚠ 警告 点検、整備、清掃のときは必ず電源プラグを抜く。

- 誤って電源スイッチに触れて、急に動き出す事があります。
- 【守らないと】 機械に巻き込まれたり、感電事故を起こすおそれがあります。

⚠ 警告 使用の際はマスクとゴム手袋を着用し、
使用後は洗眼する。

⚠ 警告 稼働中に主電源を切ったり、電源プラグを抜かない。

- ドラムの回転が確実に止まっていることを確認して主電源をおきください。
- 【守らないと】 事故・ケガ、機械の故障をまねくおそれがあります。

⚠ 警告 ドラム内の最大投入重量は40kgまで。

- 種籾、コーティング材、噴霧する水の分量を計算して作業を行ってください。
- 【守らないと】 事故・ケガ、機械の故障をまねくおそれがあります。

3. サービスと保証について

保証書について

「保証書」はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。
お読みになった後は大切に保管してください。

重要 改造した場合や、使用目的が異なる場合は、保証の対象外となりますのでご注意ください。

アフターサービスについて

機械の調子が悪いときに点検、処置しても、なお不具合があるときは、
下記の点を明確にして、お買い上げいただいた販売店、JAまでご連絡ください。

〈連絡していただきたい内容〉

- 型式名と製造番号
- ご使用状況は？（どんな作業をしていたときに）
- どのくらい使用されましたか？（約〇〇時間使用後）
- 不具合が発生したときの状況を出来るだけ詳しくお教えてください。

補修部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は製造打ち切り後約9年です。ただし、
供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく
場合もあります。

補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、
供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、
納期および価格についてご相談させていただきます。

4. 本製品の使用目的について

本製品は、カルパー[®]粉粒剤16または鉄粉を種子コーティングすることを目的とした機械です。
使用目的以外の作業や改造などは決して行わないでください。

重要 使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんので
ご注意ください。

※種子の準備

品質が良く発芽率の高い種子を選別します。良い種子を使えば、仕上がった鉄コーティン
グ種子の発芽率も高くなります。
一方、発芽率の低下した種子を使えば、鉄コーティング後の発芽率も低下します。

※種子消毒

- 通常はヘルシード＋スミチオン混液で消毒します。
- 温湯消毒も可能と言われますが、コーティング時の温度管理ができなく、効果は望めません。
注)鉄コーティング時の温度管理ができないと、種子が焼け発芽率の低下現象が起こります。
鉄コーティング時は最高温度が40℃以下になるように作業を行ってください。

※浸種催芽処理

- 購入した種子は、そのままでは水田に播いた時に発芽に時間が掛かります。そこで浸種し
た
種子を湿ったまま、又は一度乾かした後に鉄コーティング処理します。
このようにすると、鉄コーティング種子を播いた後で、出芽にかかる日数が少し短縮されます。

※コーティングの実施

鉄コーティング作業工程は、カルパー粉粒剤と同様に行います。

- ①種子を入れます。(乾籾、もしくは浸種籾)
- ②機械を作動させます。
- ③調合した鉄コーティング剤を入れます。
- ④水を噴霧します。
- ⑤1次コーティングが終了したら、仕上げ用の焼石膏を入れます。
- ⑥2次コーティングが終了したら、機械を停止させ中身を取り出します。
- ⑦コーティング時に発生した熱を取りながら乾燥させます。

注)日陰で風通しの良いところで吸水性の有るシート(ムシロ・ゴザ)に薄く広げます。又は、育苗
箱に給水紙を敷き、種子が重ならないように入れます。目安は1箱当り1kg以下にしてください。

※種子が重なっていると、コーティングの熱により種子が死滅するので注意してください。
コーティング直後の種子は灰色ですが、1晩おくとコーティングが乾き、茶色のまだら模様となりま
す。

※感触では播ける程度の硬さになっていますが、使用する播種機によっては、機械的衝撃によ
りコーティングが壊れる事もあります。

※十分に乾燥していない状態でバットや網袋にいれると、発熱により種子が死んでしまいます。
特に雨天時の袋詰めはさけて下さい。

12. 作業方法(鉄コーティング)

⚠ 安全上の注意

使用の際はマスクとゴム手袋を着用し、使用後は洗眼する。

※鉄コーティング湛水直播とは
種子を鉄粉でコーティングして重くし、代かき後湛水または落水状態で土壌表面に播種する方法。

特徴

- 比重が大きく、水中で種子が浮かない。
- 重たい為種子が土壌と密着する。

※コーティング比(鉄粉の重さ/種子の重さの比)について

- 初めて鉄コーティング直播を行うときは、コーティング比を0.5とします。
- 雀の食害が少ないときは、代かきや水管理を調節すれば、0.1でも可能です。

※コーティングの原理

- 鉄で種子をコーティングできるのは、鉄粉が種子の表面で錆びて(酸化して)、錆がのりの役目をするからです。
- 酸化促進材として焼石膏を鉄粉にまぜておき、水を噴霧して酸化を開始させます。この時に熱が発生し、酸素が吸収されます。

材料の分量

コーティング比と分量(kg)

種子20kg(播種面積40a)の例

コーティング比		0.1	0.25	0.5
種子		20.0kg	20.0kg	20.0kg
混合	鉄粉	2.0kg	5.0kg	10.0kg
	焼石膏※1	0.2kg	0.5kg	1.0kg
仕上げ焼石膏※1		0.1kg	0.25kg	0.5kg
合計重量※2		22.3kg	25.75kg	31.5kg

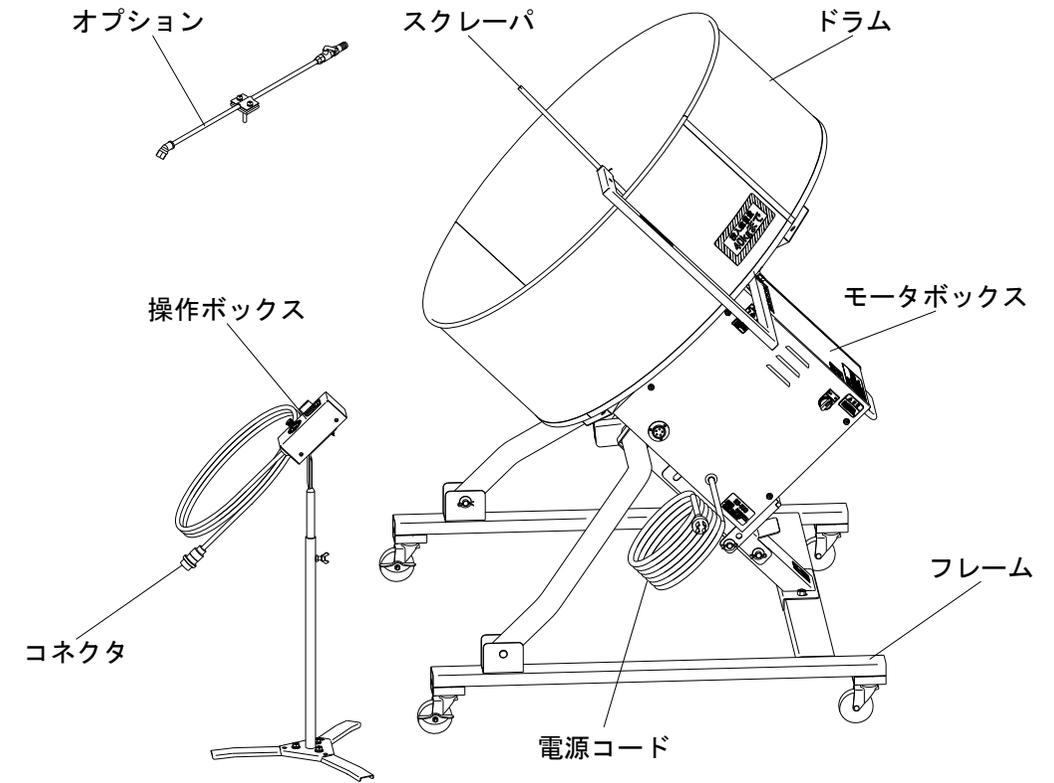
※1) 焼石膏の使用量は、コーティング作業の都合や仕上がり具合により自由に増減できます。

※2) コーティング作業には水を使用します。噴霧した水の重さも合計してドラム内の合計重量が40kgを超えないように注意してください。

◎お問合せはこちらへ

独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 近畿中国四国農業研究センター

5. 各部のなまえ



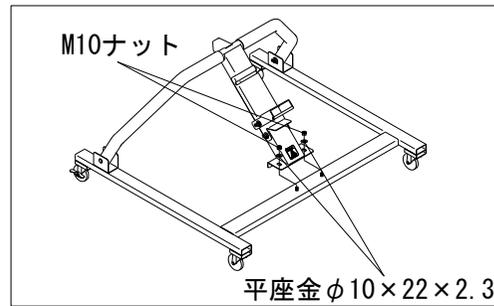
6. 仕様

名称	種子コーティングマシン
型式	KC-300
寸法	幅 1100mm × 奥行 1000mm × 高さ 1480mm
重量	64.5kg
ドラム傾斜角度	45° (運転時固定)
ドラム回転速度	13.3～39.9rpm
ドラム投入総重量	最大40kg
電源	三相 200V
モータ容量	200W
付属品	噴霧器(ハンディータイプ)
オプション	噴霧ノズル

7. 組立要領

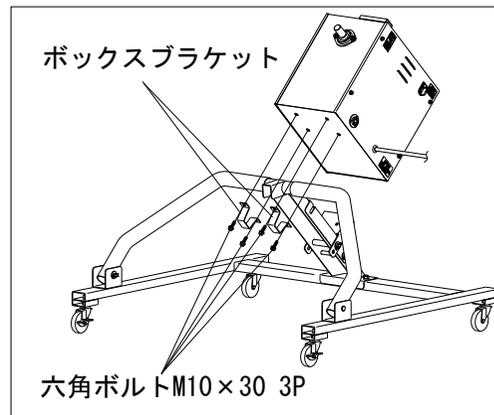
7-1. フレームの組立

後ろフレームをベースフレームにM10ナットと平座金φ10×22×2.3で組み付けます。



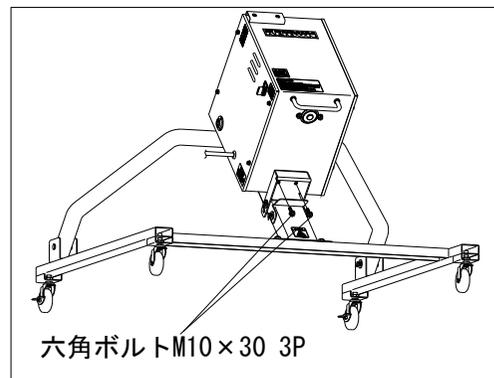
7-2. モータボックスの組立1

モータボックスをフレームに乗せる。ボックスブラケット×2を六角ボルトM10×30 3P 4本で組み付けます。



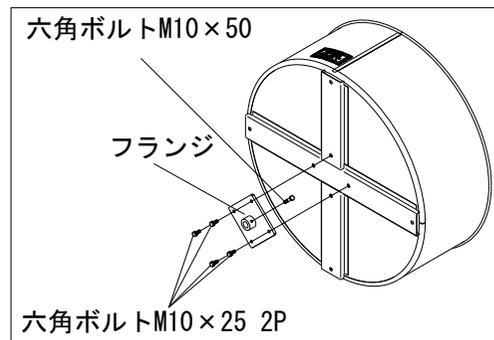
7-3. モータボックスの組立2

裏側も同様にM10×30 3P 2本で組み付けます。



7-4. ドラムの組立1

ドラムにフランジを六角ボルトM10×25 2P 4本にて組み付けます。



作業が終わったら

- 1、使用後のドラムはそのまま放置すると、粉剤が固化して除去できなくなるので、作業終了後は直ちにヘラ等で削り落とし、水洗いはシーズン最後のときのみとし、水洗い後は乾いた布でよく拭きとり、油をぬって新聞紙をはりつけておきます。

※シーズンオフ時はドラムを外し、逆さにして保管してください。

※ドラム内に砂・碎石を入れ回すと傷つき、コーティングや洗浄に支障をきたします。

※休憩・昼食などでしばらく作業を行わない場合は、内部のカルパー、粉をヘラや金属製タワシ等で除去してください。

- 2、粉衣処理作業、及び粉衣種子取扱いの際には、マスク・ゴム手袋を着用し、作業後は、洗眼及び顔手足等を石鹼で洗い、うがいをしてください。もし、眼に入った場合は直ちに水洗いし、医師の手当てを受けるなどの処置をしてください。

警告

作業時は必ずマスクとゴム手袋を着用し、使用後は洗眼する。

- 3、カルパー粉粒剤16を保管する場合は直射日光を避け、酸類と隔離し、乾燥した場所に密封して保管してください。
※吸湿すると固結分解を始めますので、特に注意してください。

播種作業

1、機械播種

- 市販されている播種機で、各メーカー取扱説明書に従い、播種量や播種深度を調整し、播種してください。

2、地上散布

- 歩行速度に合わせて、動力散粉粒機エンジン回転数及びシャッター開度を調整し、種専用噴頭を付け、噴頭を斜め上向きにして播種します。
- エンジンの回転数を最大にすると播種量にバラツキが出易いので、回転数を少し絞って作業を行ってください。

3、播種時期

- 日平均気温が15℃以上に成る時期が適当です。

4、播種量

- 乾籾重量として10aあたり3kgが標準です。

播種後の栽培管理

1、水管理

土壌表面を締め、種籾を保持して浮き苗や転び苗になりにくくするために、代かき時、額ぶちに溝切りは2～3日後、田に対角線に溝を切り、額ぶちの角につなげるようにする。完全に落水し、10～12日程干してから入水します。入水後は使用基準に従って除草剤を散布してください。

2、出芽苗立管理

機械播種では、通常70～100本/m²の苗立数は得られるようになりました。

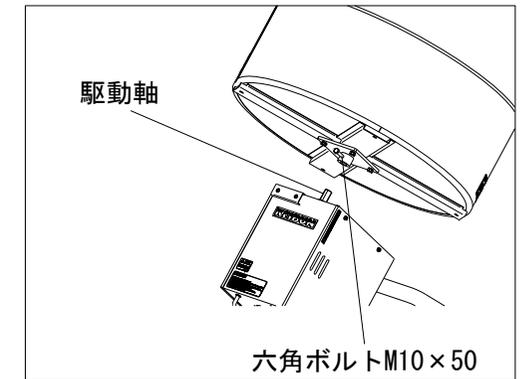
地上散播は更に出芽率はよく、安定していますので、初期成育の貧弱さに惑わされず、その後の肥料管理をしっかり行ってください。

3、その後の管理

水稲直播研究会発行の「湛水土壌中直播栽培の手引き」(農林水産省ホームページ内)を参考にするとともに、地区の農業改良普及センター等関係機関の指導を受けることをお勧めします。

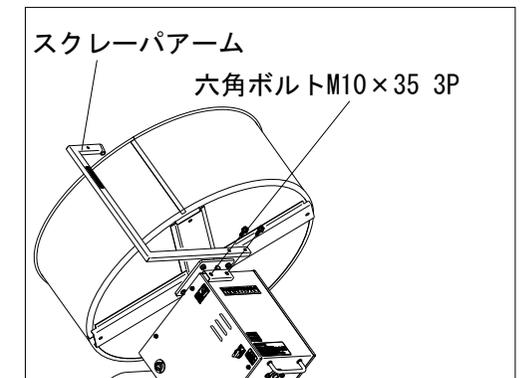
7-5.ドラムの組立2

ドラムをモーターボックスの駆動軸に差込み六角ボルトM10×50で固定します。



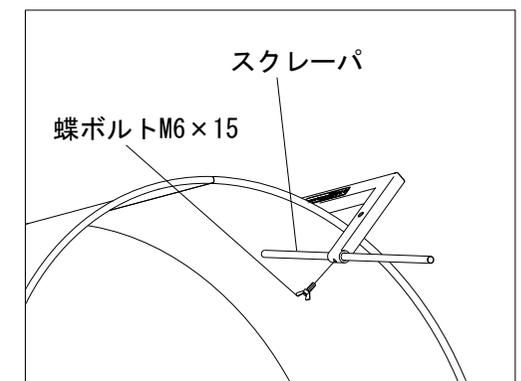
7-6.スクレーパの組立1

モータボックスにスクレーパアームを六角ボルトM10×35 3Pにて組み付けます。



7-7.スクレーパの組立2

スクレーパをスクレーパアームに挿し込み。ドラムの底まで入れて蝶ボルトM6×15で固定します。

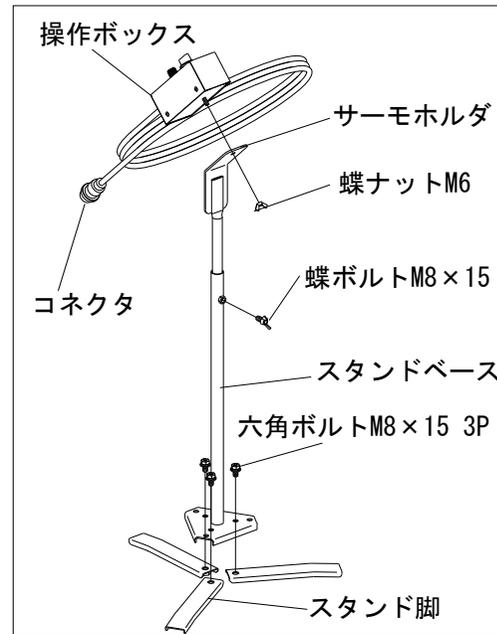


7-8.操作ボックスの組立1

スタンドベースにサーモホルダとスタンド脚を組み付けます。

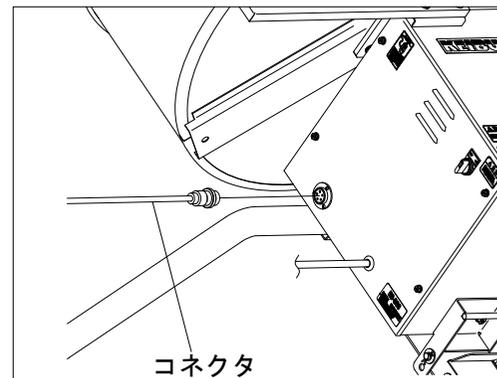
サーモホルダに操作ボックスをのせて蝶ナットM6で固定します。

サーモホルダの高さを蝶ボルトM8×15で調整します。



7-9.操作ボックスの組立2

操作ボックスのコネクタをモータボックスに挿し込みます。



6、カルパー粉粒剤16が種子全体に均一に混ざり、種子の流れが勢い良くなってきたら3、からの作業を繰り返し行ってください。その後同様の作業で、カルパー粉粒剤16を全量入れ終わった後、少量の水を噴霧し、回転を続け、コーティング表面をよく締めます。

※ 粉衣粉の粉衣層をより充実させる為に、ドラムを3～5分以上回転させながら、全体の水分を均一にすると同時に、粉衣粉の水分を見ながら全体に軽く吹き付けてください。

※ 時間を十分にかけて、水を少量ずつ数回に分けて仕上げます。

※ 粉衣粉の表面に光沢が出てくる程度になるまでに、断続的に水を噴霧してください。

注) コーティング種子はカルパー粉粒剤16がしっかり付着し、外観がややまるみのあるペレット(小玉)状に仕上げてください。

7、コーティングされた種子を別の容器に移して乾燥してください。連続作業を行う場合は、1、に戻り作業を行ってください。

カルパーコーティング種子の陰干し

注) カルパーコーティング種子の陰干しは日陰で風通しの良い所で給水性の有るシート(ムシロ・ゴザ)に広げて行き20分程度陰干しします。種子の表面色は灰色から白色に変わります。

注) 乾燥させ過ぎると割れや詰まりの原因となります。

保管

網袋に入れて風通しの良い屋内にて、パレット等通気性の良い台に重ねないように並べ、ムシロ・ゴザをかけて保管する。日数が経つと発芽率が低下するため、なるべく早く使用してください。

圃場の準備

1、機械播種

- 代かきはできる限り播種の前日に行ってください。
また、代かき時に田の額ぶちに沿って溝きりを行ってください。

2、地上散布

- 播種の前に浅水で代かきし、泥水状態で播種を行ってください。
注) 機械播種・地上散布共に、代かきは練りすぎないように行ってください。
練り過ぎると著しく発芽苗立率が低下します。

コーティング方法

警告

作業時は必ずマスクとゴム手袋を着用し、使用後は洗眼する。

※粉衣処理作業及び粉衣種子取扱いの際には、マスク・ゴム手袋を着用し、作業後は、洗眼し顔手足等を石鹸で洗い、うがいをしてください。もし、眼に入った場合は直ちに水洗いし、医師の手当を受けてください。

材料の分量 (種子10Kgの例)

種子(乾粒重量)	10Kg		
コーティング 比(乾粒;粉粒剤)	1:1	1:1.5	1:2
カルパー 粉粒剤	10Kg	15Kg	20Kg
合計重量	20Kg	25Kg	30Kg

1、ハト胸程度に催芽した種粒を十分水切した後、コーティング機のドラムに仕上がりで最大40kg(粒+カルパー+水)に成るように種粒の量を調整して入れてください。

2、操作ボックスのスイッチを「ON」にします。

ドラムが回転します。

※水分を均等に行きわたせるために、2～3分そのまま回し続けます。

※ドラムを回し続けていると、回転の中心部にゴミや芒や枝梗の付いた粒が集まりますので、完全に除去してください。芒や枝梗付粒はダンゴ種子の原因になります。

種粒がドラムの上方から落ち始める位置に、水を少量噴霧し、種粒の表面を均一に濡らします。

※水は噴霧し、少しずつ数回に分けながら行います。

注) 直接ドラムには、かけないで下さい。種子の動きが悪くなります。

※噴霧する位置は、ドラムの上端より20cm下の、種子が流れている所に行ってください。

注) 種子の流れに若干よどみが出る程度になるまで噴霧してください。

3、カルパー粉粒剤16をドラムの下方位置に少量ずつ加えます。

※カルパー粉粒剤16は、少量ずつ振りかけてください。

※カルパー粉粒剤16と種子が、ドラムの側面に付着したら早めに落としてください。

注)ダンゴ種子の原因になります、又 ダンゴ種子になった場合は早めにほぐしてください。

4、コーティング作業は時間をかけて、種子にカルパー粉粒剤16が均一に付着するように、水とカルパー粉粒剤16を交互に少量ずつ加えます。

5、カルパー粉剤を1/3入れ終わった所で数分回転させ、均一にコーティングされているか確認してください。

8.使用上の注意

警告 タコ足配線は、しないでください。
電源は必ず、専用コンセントからとってください。

警告 必ずアースして使用すること。
万一故障の際、感電するおそれがあります。

- 1、コーティング方法については、必ず取扱説明書(11ページ～)をお読みください。
- 2、長距離の運搬の際は、ドラムをモーターボックスより取り外してください。
(取り外さないで運搬しますと、ドラム及びシャフトが変形することがあります。)
- 3、機械全体を持上げたりする際は、ドラムを持って行わないでください。
(ドラムが変形したり、ドラムが回転し転倒の恐れがあります。)

警告 運転中は回転部や駆動部に触れてはいけません。

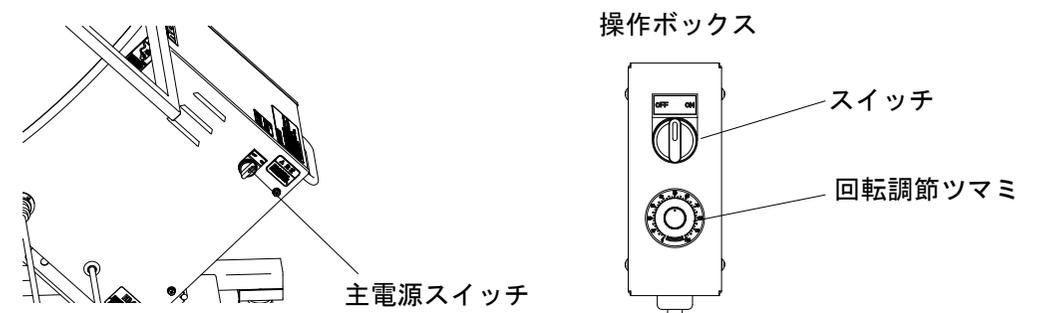
● 運転中、潤滑材の補充・充填をしてはいけません。

【守らないと】 巻き込みや挟み込みにより、身体に重傷を負う危険があります。

9.操作方法

1. 電源の操作方法

モータボックスの主電源をONに入れます。次に操作ボックスのスイッチをONに入れるとドラムが回転し始めます。(回転方向はドラムに向かって右回りです)ツマミを回して回転速度を調節してください。スイッチをOFFにするとドラムの回転が止まります。



重要 稼働中に主電源を切ったり、電源プラグを抜かない。

● ドラムの回転が確実に止まっていることを確認して主電源をおきりください。

【守らないと】 事故・ケガ、機械の故障をまねくおそれがあります。

注意 挟み込みに注意してください。

10. 種子の取り出し方法

- 1、モータボックスの主電源をOFFにし、機械の回転が完全に停止するのを確認します。
- 2、ドラムの下に種子を受ける容器を用意します。
- 3、ドラムを傾けます。

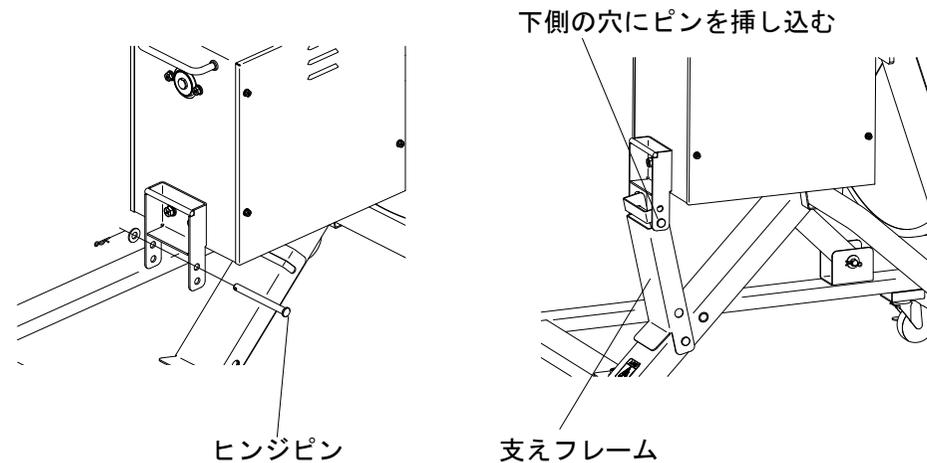
※ドラムを傾けることで粉を取り出すことができます。

ドラム内に大量の粉が残った状態で傾けると重みで急に傾きますので注意してください。

ヒンジピンを抜いてドラムを傾けます。

ピンを抜きドラムを起こしてください。再度ピンを挿し込み支えフレームで固定します。

作業中は確実にピンを挿し込んでください。



- 3、ドラム内の粉を、スコップ等で容器に移します。

⚠ 注意 挟み込みに注意してください。

装置の隙間に手や指が挟まれないように注意してください。

11. 作業方法(カルパー[®]コーティング)

種粉の準備

- 1、品種の選定と種粉の準備
 - a、都道府県の推奨品種の中で、湛水土壤中直播に向いている品種を選んでください。
 - b、種粉は充実した傷のないもので、枝梗芒を取り除いた物を準備してください。
 - c、種粉は塩水選(比重 : 1.13 = うるち 1.08 = もち) および種子消毒をしてください。

- 2、浸漬・催芽

浸粉・消毒の終わった種粉を、ハト胸程度に留めるよう催芽します。

※ 発芽してしまった種粉は、コーティングの際に芽や根が欠ける恐れがあるので、使用しないでください。(浸種から催芽までの積算温度は 60~80℃です)

- 3、水切り

種粉を網袋のまま催芽容器から取り出し、脱水機を用いて3分間脱水あるいはコーティング前日に水から引き揚げおき、1日間水切りをして、水滴が落ちなくなるまで十分水をきってください。

※ 粉の水切りが不十分だとダンゴ粉発生の原因になりますので、手で握って手に付かない程度まで十分水切りを行ってください。

- 4、コーティング時期

カルパー粉剤16のコーティングは、できるだけ播種1~2日前に行ってください。

※コーティングした粉を長期間保存すると、発芽が悪くなる場合があります。

- 5、種子コーティングマシンの設置

●直射日光や強風等が差し込まない倉庫、建屋内に設置して下さい。

●水平な場所に設置してください。